

研究・調査報告書

報告書番号	担当
464	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption, blood pressure, and the risk of stroke. アルコール消費量、血圧と脳卒中リスク	
執筆者	
Hillbom M, Saloheimo P, Juvela S.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Curr Hypertens Rep (2011) 13:208-213	
キーワード	
アルコール、過度の飲酒、喫煙、血圧、脳卒中	
要 旨 アルコールと高血圧の相乗効果によって、脳卒中リスクが高まることが示唆されている。しかしながらアルコール誘発性の高血圧の脳卒中発生・死亡への寄与は、異なる飲酒パターンの影響が別々に検討されていないため、実際観察されているものより大きい可能性がある。収縮期血圧におけるアルコール誘発性の一過性のピークは脳卒中の素因となる可能性がある。最近の研究ではアルコール消費に関連した血圧上昇の時間推移を測定したものがある。この研究では、血圧で顕著な早朝のサージがありアルコール摂取と用量依存性があること、また喫煙と独立であることがわかった。高血圧の重症例の男性は、重度の過剰飲酒に関連し、心血管疾患死亡率が 12 倍のリスク増加を示した。過剰飲酒は脳卒中の有意な危険因子である。高血圧患者はアルコールの危険性について注意し、脳卒中すべてのサブタイプのリスクを増加する理由から、過剰飲酒を避けるよう努めるべきである。	